

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成 17 年 5 月 19 日 (2005.5.19)

【公開番号】特開 2003-127278 (P2003-127278A)

【公開日】平成 15 年 5 月 8 日 (2003.5.8)

【出願番号】特願 2001-326067 (P2001-326067)

【国際特許分類第 7 版】

B 3 2 B 15/08

C 0 8 G 63/82

C 0 8 J 5/18

// C 0 8 L 67:00

【F I】

B 3 2 B 15/08 1 0 4 A

C 0 8 G 63/82

C 0 8 J 5/18 C F D

C 0 8 L 67:00

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 7 月 7 日 (2004.7.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1 2】

不活性球状粒子の含有量が、(A) 層中では 0.01 ~ 0.5 重量%であることを特徴とする請求項 1 ~ 11 のいずれかに記載の金属板貼合せ成形加工用ポリエステルフィルム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1 3】

(A) 層中には不活性球状粒子と多孔質粒子の両方を含有し、不活性球状粒子の平均粒径は 0.08 ~ 1.5 μm であって、かつ多孔質粒子の平均粒径よりも小さいことを特徴とする請求項 1 ~ 12 のいずれかに記載の金属板貼合せ成形加工用ポリエステルフィルム。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

不活性球状粒子は、平均粒径が 0.05 ~ 2.0 μm である必要があり、好ましくは 0.07 ~ 1.7 μm 、さらに好ましくは 0.08 ~ 1.5 μm である。かかる粒子の平均粒径が 0.05 μm に満たない場合は、フィルムの生産性が低下し、またフィルム表面性が平坦になるものの、成形加工性が反って劣るようになるため好ましくない。また、2.0 μm を超える場合は、成形加工時のピンホールが多発し、満足な製品が得られなくなり

好ましくない。また、(A)層中には不活性球状粒子と多孔質粒子の両方を含有し、さらに不活性球状粒子の平均粒径が多孔質粒子の平均粒径よりも小さく、かつ $0.08 \sim 1.5 \mu\text{m}$ の範囲にあることが、高度な深絞り成形加工性とフィルム生産性および保味保香性とのバランス上、非常に好ましい。